

海軍公報

(部内限) 第四千四百四十九號

昭和十八年七月二十六日(月)

海軍大臣官房

○令 達

官房備第一九四號

昭和十二年官房第四四九六號中左ノ通改正

昭和十八年七月二十三日

海軍大臣

内令提
要登載

表中第五海軍軍用郵便所ノ項職員ノ欄所員「專任 六人判任」ヲ「專任 八人判任」ニ、第二十五海軍軍用郵便所ノ項職員ノ欄所員「專任 十二人判任」ヲ「專任 十五人判任」ニ改ム

〔專任 十五人判任〕ニ改ム
〔專任 十三人判任〕

(参照) 昭和十二年官房第四四九六號ハ海軍軍用郵便所設置ノ件ナリ(昭和十七年十月六日本欄)

官房機密第四五六號

軍需品以外ノ對南方交流物資ノ取得及賣拂手續中左ノ通改正ス

昭和十八年七月二十四日

海軍公報(部内限) 第四千四百四十九號

昭和十八年七月二十六日

七八九

海軍大臣

第二十五條ノ二 本手續ニ依ル物資ノ賣拂代金ニ付テハ第十一條又ハ第二十一條ニ依リ買受人ニ對シ物資引渡ノ日ヨリ起算シ左ノ區分ニ依リ之ガ延納ヲ許可スルコトヲ得

- 一 品質檢定ヲ要スル物資ニ在リテハ六月以内
- 二 其ノ他ノ物資ニ在リテハ三月以内

第二十五條ノ三 前條ニ依リ許可シタル延納代金ニ付テハ擔保ノ提供ヲ免除スルコトヲ得

○通 牒

兵備四機密第六九四號

昭和十八年七月二十六日

海軍省兵備局長

關係廳長殿

海軍軍屬トシテ從軍中ノ海陸軍在郷軍人ノ兵役事務取扱ノ件中改正ノ件申進

昭和十七年兵備機密第一九二號(昭和十七年二月二

0751

日海軍公報(部内限)参照) 首題ノ件ニ關シ通報先ヲ左ノ通變更セラレ候

通報先 陸軍ノ部

陸軍	陸軍省人事局長	將官
朝鮮、臺灣、關東州各在留地兵事部長	本籍地聯隊區司令官	右以外
通	報	先
區	分	

兵備四機密第六九六號
昭和十八年七月二十六日

海軍省兵備局長

關係廳長殿

雇員備人規則改正ニ關スル件申進

本年六月十五日達第百四十六號ヲ以テ首題規則改正セラレ六月二十二日官房備機密第一九二號ニ依リ雇員備人等級付與ニ關シ定メラレタル處現行規則ヨリノ轉換時ニ於ケル之ガ取扱ニ關シテハ左記各號參照ノ上可然取計相成度

記

一 現ニ雇員タルモノハ改正ノ雇員備人規則ニ依ル雇

員トシ特別ノ場合ヲ除クノ外備人トセザルモノトス
二 規則改正ニ伴フ職名ノ變更ハ左表ニ依ル

裁斷長	裁縫長	看護婦長	坑内取締	倉庫長	靴工長	器械手	技員	技生	筆記	筆生	雇員	備人
裁縫士	看護婦	守衛	技工士	製麵手(麵麩)	麵麩手	製麵手(麵麩)	裁縫手(裁斷)	海圖印刷手	海圖彫刻手	彫刻手	新	舊
潜水夫	水栓手	舟夫	舟夫	割烹	研磨手	工作手(研磨)	工作手(水栓)	潜水手	潜水手	潜水手	潜水手	潜水手

0752

		精米長	麵麩長
		製糧士	
看護婦	軍用郵便夫	剃夫	定夫
養成看護婦	軍用郵便手	理髮手	用務手(整理)
			飛行場夫
			使丁
			烹炊夫
			洗灌夫
			消毒夫
			火夫
			經師
			靴工手長
			鐵道線路工夫
			印刷工
			整備手
			兵器手(整備)
			印刷手
			線路手
			靴工手
			經師手
			機關手(備)
			衛生手
			洗灌手
			烹炊手
			用務手(使用)
			用務手(整理)

備考		見習看護婦
(一) 坑手ハ技工士ニ身分變更ス		記録手
(ニ) 助産婦ハ看護婦ニ身分變更ス		配給手
三 専ラ消防ノ業務ニ服スルモノハ警防手ニ職名變更ス		運輸手
四 現ニ傭人タルモノニシテ雇員ニ身分ヲ變更スベキモノ(例看護婦ノ一部)及雇員ニ身分變更ノ資格ヲ有スルモノハ豫算定額内ニ於テ身分ヲ變更スルコト		製糧手(精米)
五 等級付與ハ保有員數以内ニ於テ適宜實施スルモノトス		
六 現ニ部内限判任待遇タルモノハ雇員長ト爲スコト		
七 工員ニ身分ヲ變更シ戰地ニ派遣中ノモノ復歸セル場合ハ派遣中ノ勤務期間ヲモ通算シ保有員數以内ニ於テ其ノ都度等級ヲ付與ス		
八 雇員長ノ選衛ニ當リテハ勤続年數ノミナラズ人物		

0753

技倆ヲモ併セ考慮シ名實共ニ一班ノ長タリ得ルコトニ重點ヲ置クモノトス

九 雇員特ニ雇員長ハ事務ノミニ其ノ職務ヲ限定スルコトナク各其ノ業務ニ應シ廣ク現場作業ニモ從事セシムル如クス

教育機密第二二二號

昭和十八年七月二十三日

海軍省教育局長

各鎮守府參謀長 殿
各警備府參謀長 殿
内火術特技兵(魚雷艇乘員ニ充ツベキモ

ノ臨時講習教程標準ノ件通牒
昭和十四年官房機密第六五八九號ニ依ル首題ノ件別紙ノ通

(別紙添)

艦本機密第一號ノ九九三三

昭和十八年七月二十四日

海軍艦政本部總務部長

各海軍軍需部長 殿
關係各廳長 殿
三十七耗砲及三十七耗戰車砲用彈藥筒ノ件通知(砲術長主管)

首題彈藥筒ノ使用區分左記ノ通ニ付了知相成度

彈藥筒呼稱	使用砲種	記	事
九四式三十七耗戰車砲九四式榴彈彈藥筒	九四式三十七耗戰車砲		
九四式三十七耗戰車砲九四式徹甲彈彈藥筒			
九四式三十七耗砲九四式榴彈彈藥筒	九四式三十七耗砲又ハ	本彈藥筒ハ場合ニ依リテハ例ヘバ	
九四式三十七耗砲九四式徹甲彈彈藥筒	九八式三十七耗戰車砲	九八式三十七耗砲九四式榴彈彈藥筒又ハ一〇〇式三十七耗戰車砲九四式榴彈彈藥筒ト呼ブ事アルモ全ク同一彈藥筒種ナリ	
九四式三十七耗砲一式徹甲彈彈藥筒	一〇〇式三十七耗戰車砲		

記

0754

一式三十七耗砲九四式榴彈藥筒
 一式三十七耗砲九四式徹甲彈藥筒
 一式三十七耗砲一式徹甲彈藥筒

一式三十七耗砲又ハ
 一式三十七耗戰車砲

本彈藥筒ハ場合ニ依リテハ例ヘバ
 一式三十七耗戰車砲九四式榴彈藥筒
 藥筒ト呼ブ事アルモ全ク同一彈藥筒種ナリ

備考 彈丸ハ各種砲共兼用シ得ルモ藥莖ノ寸法ニ長短アルニ付

○ 辭令

(各通) 千八百六拾圓 江口 馨
 千四百八拾圓 武信 正治
 徵用中自今年額(各頭書ノ通)ヲ給ス(海軍省)
 貳千四百圓 岡田 通麿
 千九百五拾圓 足田 敬次郎
 千九百五拾圓 近田 一男
 千九百五拾圓 岡村 豪二
 千八百六拾圓 山田 正夫
 千八百六拾圓 大宮 敏郎
 千八百六拾圓 杉下 次郎
 千八百五拾圓 名倉 茂
 千七百八拾圓 瀧田 大吉郎

(各通) 千五百六拾圓 高橋 眺正
 千七百圓 飯田 正樹
 千六百八拾圓 井上 嘉樹
 千五百六拾圓 中尾 正
 千五百六拾圓 山崎 元典
 千四百七拾圓 伊藤 盈爾
 千四百七拾圓 奥田 三友
 千四百七拾圓 今成 敏夫
 千參百圓 高橋 六郎
 千貳百圓 片桐 幹夫
 徵用中自今年額(各頭書ノ通)ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(海軍省)
 氣象技手 島田 連明
 第五艦隊司令部附ヲ命ス(海軍省)
 通信手 佐藤 悟郎
 第二十七海軍軍用郵便所員ヲ命ス

0755

但シ身分ノ取扱ハ部内限判任官待遇トス(註同)

(各通)

氣象技手 尾形 澄夫
同 藤井 一摩

第二氣象隊附ヲ免シ水路部附兼海軍氣象部附ヲ命ス
(註同)

海軍大佐 黒島 龜人

海軍學生銓衡委員ヲ命ス

海軍武功調査委員ヲ命ス

燃料政策調査會委員ヲ命ス

能率増進對策調査委員會委員ヲ命ス

造船委員會第一委員會委員ヲ命ス

同 高田 榮

海軍生徒採用試験常置委員ヲ命ス(以上註同)

○ 雜 款

○ 正誤

七月十六日附公報(部内限) 七五二頁辭令欄下段七行
目「第一部第二課兼同第十二課第二部第九課勤務ヲ命
ス」ハ「第一部第二課兼同第十二課第四部第九課勤務
ヲ命ス」ノ、七月十九日附公報(部内限) 七六六頁上

段八行目「海軍大尉谷口精二」ハ「海軍大尉谷口靖二」
ノ孰モ誤

0756

(別紙)

内火術特技兵(魚雷艇乗員ニ充ツベキモノ)臨時講習教程標準

(昭和十八年七月二十六日海軍公報(部内限))

科目	本				項目	節	目	教授回数 (平日) (トス)
	内火機關	電力機關	工作	圖學				
陸戰、武技、體操、體技、信號術ノ大要、救急法	内火機械一般	發電裝置ノ大要	金屬工業大要	圖學	内火機械一般、燃料需品ノ大要	内火機械一般、燃料需品ノ大要	二ヶ月 教務	一〇
	小型内火機械	電機工業大要	發電機、電動機、白熱電灯ノ大要、電線接續法	工作				一五
	魚雷艇機械ノ構造、作動整理操縦法	運轉實習	魚雷艇機械ノ構造、作動整理操縦法	畫法、見取				一〇
	魚雷艇機械ノ構造、作動整理操縦法	一〇	一五	一五				一〇
	魚雷艇機械ノ構造、作動整理操縦法	一〇	一五	一五				一〇

0757

海軍公報 (部内限) 第四千四百五十號

昭和十八年七月二十七日(火)
海軍大臣官房

0758

○通牒

官房需第一五七號

昭和十八年七月二十四日

海軍次官

各所屬長官殿

生活簡素化ニ關スル件申進

戰時國民生活ニ必要ナル衣糧ノ確保ニ付テハ固ヨリ政府ニ於テ萬全ノ措置ヲ講ゼラレツツアルモ其ノ需給ノ現狀ハ容易ナラザルモノアリ戰局ノ現段階ニ對處シ之ガ窮狀ヲ打開シ以テ戰爭ノ完遂ヲ期スル爲ニハ一ニ生活ノ簡素化ヲ圖リ極力消費ヲ節約シ困苦缺乏ニ耐ユル等一層實質剛健ナル生活様式ノ樹立ニ俟タザルベカラズト認メラルルニ付部内一般率先簡素ナル生活様式ヲ研究勵行シ戦力ノ増強ヲ圖ルノ目途ヲ以テ概ネ左記諸項ノ實施ニ關シ部下指導上留意セシメラルル様取計相成度

記

一 生活様式ノ簡素化

(一) 服裝ニ付テハ單ナル新品ニ依ル威容ノ整正ヲ求メズ寧ロ清潔簡素ヲ旨トシ保存手入等ノ勵行ニ依リ質實ノ威容ヲ採ラシムルコト

(二) 准士官以上、食卓ハ努メテ兵食材料ヲ給與シ從前通ノ洋式献立ヲ廢スル如クシ洋式食器等ノ使用ヲ節スルト共ニ從兵等ノ減員ヲ圖ルコト但シ調理ハ兵食ト同一ト爲スコトヲ要セズ適宜兵食ト別個ニ調理献立ノ上供食スル如ク爲スコトヲ得

二 食糧ノ規正ト蓄積

(一) 糧食給與ニ當リテハ能ク限リ消費ヲ規正シ以テ喰ヒ延シニ依リ蓄積ニ努メ戦力強化ヲ圖ルコト

(二) 糧食調理ニ付テハ榮養ヲ旨トシ不必要ナル廢棄部分ノ皆無ニ努ムルコト

(三) 現地部隊ニ在リテハ「タビオカ」、「サゴ」澱粉、椰子ノ實、「ババイヤ」等ノ現地産物資ハ極力之ヲ

海軍公報 (部内限) 第四千四百五十號

昭和十八年七月二十七日

七九五

取得食糧化スルノ外戰務ニ差支ナキ範圍ニ於テ食糧ノ現地生産ニ努メ以テ現地自活ノ強化ヲ圖リ追送糧食品ノ蓄積ニ努ムルコト

三 物資ノ愛護節約

(一) 物資ハ努メテ之ヲ愛護シ以テ其ノ命數ヲ延長シ極度ノ節約ヲ圖ルコト

(二) 容器其ノ他ノ廢品ハ極力之ガ回收ニ努ムルコト

海人機密第一號ノ三二〇

昭和十八年七月二十三日

海軍省人事局長
海軍省教育局長

各鎮守府、艦隊、警備府參謀長
海軍練習聯合航空總隊參謀長
關係各所 長 殿

昭和十八年六月一日以降充員召集ノ第一補充兵、第二補充兵及第二國民兵ニ對スル人事取扱等ニ關スル件申改正ノ件申進

本年海人機密第一號ノ一九二申進首題ノ件申左記ノ通改正セラレ候

第三號(口)表中海兵團ニ配員ノモノノ部ノ次ニ左ノ如ク

加フ

上海海軍特別陸戰隊ニ配員ノモ	昭和十七年内令第五百十七號ニ據リ規定ノ新兵教育ヲ實施ス
----------------	-----------------------------

第三號ハ及第四號中「所轄長」ノ下ニ「上海海軍特別陸戰隊司令官ヲ除ク」ヲ加ヘ第一〇號ヲ削ル

附則

本令ハ昭和十八年十二月中旬以後上海海軍特別陸戰隊ニ於テ教育ヲ開始スベキモノニ付之ヲ適用ス

○ 辭 令

(各通)	鐵道官補 武 菊太郎
	同 根本長五郎
	同 北岡 虎吉
橫須賀鎮守府附ヲ免シ橫須賀海軍運輸部附ヲ命ス	
(各通)	同 徳田 壽一
	同 梶田 正之
	同 大村 義之
吳鎮守府附ヲ免シ吳海軍運輸部附ヲ命ス	

0759

<p>(各通)</p> <p>同 磯田 定太郎</p> <p>同 上田 豊太郎</p> <p>佐世保鎮守府附ヲ免シ佐世保海軍運輸部附ヲ命ス</p> <p>(各通)</p> <p>同 山蔭 清美</p> <p>同 須野 忠一</p> <p>舞鶴鎮守府附ヲ免シ舞鶴海軍運輸部附ヲ命ス</p> <p>同 千田 茂</p> <p>大阪警備府附ヲ免シ大阪海軍運輸部附ヲ命ス(以上 三十五期海軍省)</p> <p>集配員 増山 才藏</p> <p>第四十一海軍軍用郵便所員ヲ免ス(七期同)</p> <p>通信書記 新井 正三</p> <p>通信書記補 花村 俊雄</p> <p>(各通)</p> <p>第二十二海軍軍用郵便所員ヲ命ス</p> <p>通信事務官 信田 真一</p> <p>第二十二海軍軍用郵便所長ヲ命ス</p> <p>通信局書記 櫻澤 雄二</p> <p>第二十二海軍軍用郵便所員ヲ命ス</p> <p>通信書記補 小林 榮一</p> <p>第二十三海軍軍用郵便所員ヲ命ス</p>	<p>第二十三海軍軍用郵便所員ヲ免シ第二十二海軍軍用郵便所員ヲ命ス</p> <p>遞信局書記 新井 正次</p> <p>事務員 目黒 弘市</p> <p>第三十二海軍軍用郵便所員ヲ命ス</p> <p>但シ身分ノ取扱ハ雇員トス(以上七期同)</p> <p>同 飯塚 秀一</p> <p>第三十六海軍軍用郵便所員ヲ命ス</p> <p>但シ身分ノ取扱ハ雇員トス(七期同)</p> <p>(各通)</p> <p>遞信局書記 澤田 郁雄</p> <p>遞信局書記補 國廣 明雄</p> <p>第八海軍軍用郵便所員ヲ免ス</p> <p>事務員 本田 美郎</p> <p>同 小澤 三郎</p> <p>同 松本 勳</p> <p>第四十海軍軍用郵便所員ヲ命ス</p> <p>但シ身分ノ取扱ハ雇員トス</p> <p>通信書記 大島 繁次</p> <p>第二十四海軍軍用郵便所員ヲ命ス</p> <p>事務員 澤田 秀雄</p> <p>第七海軍軍用郵便所員ヲ免ス(以上七期同)</p>
--	--

海軍公報(部内限) 第四千四百五十號

昭和十八年七月二十七日

七九七

0760

○事務開始
第四十七號 驅潛艇艇裝具事務所ハ七月十八日長崎縣西
彼杵郡香焼村字長濱長崎海軍監督官事務所香焼島出張
所内ニ於テ事務ヲ開始セリ

○本日普通公報發行セズ

0761

海軍公報

(部内限) 第四千四百五十一號

昭和十八年七月二十八日(水)

海軍大臣官房

0762

○令 達

官房經第八二五號

國防獻金等取扱手續左ノ通定ム

昭和十八年七月二十七日

海軍大臣

國防獻金等取扱手續

第一條 國防獻金、恤兵金及學藝技術獎勵金(以下單ニ獻金ト稱ス)ノ取扱ニ關シテハ別ニ規定アルモノヲ除クノ外本手續ニ依ル

第二條 國防獻金出納規程第二條ノ二、恤兵金出納規程第七條又ハ學藝技術獎勵金出納規程第五條ノ規定ニ依リ分任出納官吏ヲ命ズルハ左ノ區分ニ依ルモノトシ廳長ハ其ノ官氏名ヲ海軍省經理局長ニ通知スベシ

分任出納官吏ヲ置ク地方官衙

分任出納官吏 備 考

海軍經理部 部員ノ中廳長

海軍經理部支部

特設海軍經理部

特設海軍經理部

地方海軍人事部

地方海軍人事

地方海軍武官府

ノ指定シタル者

應長又ハ部下

判任官以上ノ

中廳長ノ指定

シタル者

海軍經理部、同

支部、特設海軍

經理部又ハ同支

部ノ所在地ニ在

ルモノヲ除ク

滿洲國在勤帝國大使館附海軍武官ハ前項ノ規定ノ適用ニ關シテハ地方在勤海軍武官ニ準ズ

海軍經理部支部長、特設海軍經理部支部長及地方在勤海軍武官(武官府ニ二名以上在勤ノ場合ハ其ノ首席者)ハ本手續ノ適用ニ關シテハ廳長ニ準ズ

第三條 寄附者匿名等ノ爲獻金寄附申出書ノ添附ナキ場合ハ出納官吏其ノ旨ヲ附記シ獻金寄附申出書ヲ作製シ廳長ノ檢印ヲ受クベシ

國防獻金ニ付航空機又ハ艦船獻納資金等使途ニ關シ寄附者ニ於テ特ニ希望アリタルトキハ獻金寄附申出

(限 内 部)

海軍公報(部内限) 第四千四百五十一號

昭和十八年七月二十八日

七九九

書ニ其ノ旨附記スベシ

第四條 出納官吏ハ獻金寄附申出書ヲ獻金ノ種別毎ニ區分シ會計年度別ニ一貫番號ヲ附シ整理編綴スベシ

第五條 出納官吏ハ獻金受領證ニ前條ノ規定ニ依ル獻金寄附申出書番號ノ合番號ヲ附スルノ外別ニ控ヲ作製シ前條ノ規定ニ準ジ之ヲ整理編綴スベシ

第六條 出納官吏獻金ヲ受領シタルトキハ速ニ寄附者ニ對シ左ノ區分ニ依リ感謝狀交付ノ手續ヲ爲スベシ
獻金額 一圓以上 千圓未満 小型感謝狀
同 千圓以上 一萬圓未満 中型感謝狀
同 一萬圓以上 大型感謝狀

第七條 出納官吏ノ受領シタル現金ハ毎日之ヲ取纏メ郵便官署又ハ確實ナル銀行ニ預託スベシ
出納官吏ハ狀況ニ依リ現金出納事務ヲ前項ノ銀行ニ委託スルコトヲ得

第八條 分任出納官吏ノ受領シタル獻金ハ每一月分ヲ翌月月頭ニ、又ハ各種別ノ獻金ヲ通ジ一萬圓以上ニ達シタルトキハ其ノ都度寄附者名簿(別紙様式)ヲ添ヘ海軍省經理局出納官吏ノ當座預金口座ニ振込ミ又ハ適宜ノ方法ニ依リ海軍省經理局出納官吏ニ送付スベシ

第九條 海軍省經理局出納官吏ハ其ノ直接受領シタル獻金ニ付寄附者名簿ヲ調製シ分任出納官吏ヨリ送付ノ分ト併セ整理編綴スベシ

第十條 出納官吏ハ獻金ノ種別毎ニ現金出納簿ヲ備ヘテ出納ヲ明ニシ現金、預金及證憑書類(獻金寄附申出書及獻金受領證控等)ト共ニ毎月末廳長ノ檢査ヲ受クベシ

附則
本手續ハ昭和十八年八月一日ヨリ之ヲ施行ス
(別紙様式添)

官房艦機密第三七七四號
當分ノ間横須賀海軍軍需部霞ヶ浦支部及横須賀海軍軍需部四日市支部ハ海軍共濟組合規則ノ適用ニ關シ之ヲ獨立ノ現業廳ト看做ス

昭和十八年七月二十七日
海軍大臣

○通牒

官房第三六五號ノ三
昭和十八年七月二十六日

海軍省 副官

各鎮守府、警備府副官殿

兵器簿及艦需品定額表發布取扱ニ關スル件中改正ノ件通知

官房第三六五號申進首題ノ件中「海軍艦政本部、海軍航空本部ノ各主務部長」ヲ「海軍艦政本部長、海軍航空本部長」ニ改メラレ候

(六月十五日海軍公報(部内限)参照)

官房備機密第二二四號

昭和十八年七月二十六日

海軍省 副官

關係廳長殿

徵備船舶宛ノ軍事郵便物ニ關スル件通牒

徵備船舶宛ノ軍事郵便物ニシテ其ノ行動所在不明ノ爲發送不能トナリ各軍港交換局ニ停滯シ發信人ニ返却スルノ已ムヲ得ザルモノ相當量ニ及居候條徵備船舶及其ノ所屬又ハ配屬部隊ハ徵備船舶宛郵便物ノ送付先ヲ最寄海軍軍用郵便所又ハ所管軍港ノ海軍港務部海軍軍用郵便監督官ニ通知スル様取計相成度
追テ行動頻繁ナルモノニ對シテハ留置局(又ハ海軍

軍用郵便所)ヲ通知相成度

軍需機密第四九八號

昭和十八年七月二十七日

海軍省 兵備局長
海軍省 軍需局長

關係各廳長殿

空氣清淨劑甲使用後ノ處理ニ關スル件通牒

首題ノ件左記ニ依リ處理ノコトニセラレ候ニ付テハ關係各廳ニ於テモ極力協力方取計相成度

記

一 目的

(イ) 重要物資切迫ノ今日容器ノ再用又ハ屑鐵トシテノ利用

(ロ) 内容藥(溶解苛性曹達)ヲ石鹼原料ニ活用
二 本品使用應ノ處置

本品ノ使用後ハ必ず上下盲蓋ヲ施シ溶液ノ流出ヲ防ギ之ヲ毀損セザル様注意シ最寄海軍軍需部(特設海軍軍需部ヲ含ム)又ハ同支部ニ還納ノコト

三 還納ヲ受ケタル各海軍軍需部及同支部

(イ) 容器内溶液ハ出來得ル限り之ヲ採集シ現地石鹼製造用原料トスルコト

海軍公報(部内限)第四千四百五十一號

昭和十八年七月二十八日

八〇二

0764

(ロ) 溶液採集後空容器ハ叮嚀ニ保存シ適時之ヲ内地海軍軍需部(可成吳需又ハ阪需)ニ送還ノコト

(ハ) 前項ニ依ル送還品ハ業者ヲシテ再用ノ可否ヲ檢セシメ再用可ナルモノハ之ヲ會社側ニ、然ラザルモノハ屑鐵等ニ利用ノコト

(ニ) (ロ)項ニ依ル指示軍需部以外ニテ受領ノ際ハ直ニ最寄指示軍需部ニ轉送ノコト

四 採集苛性曹達ノ處置

(イ) 南方方面各特設海軍軍需部ハ「南東方面艦隊機密第二〇〇號ノ三ノ二五」ニ依リ石鹼ノ製作(供給)ヲ行フコト但シ之ガ製作ノ爲特ニ其ノ施設、要具ノ整備ヲ爲サザルコト

(ロ) 内地各海軍軍需部ハ三(イ)ニ依ル溶液ヲ保管シ相當量トナラバ當局ニ通報ノ上指示ヲ俟ツコト

○ 辭 令

海軍中佐 板垣 金信

第一課兼第二課勤務ヲ命ス(七五海軍省軍務局)

海軍主計兵曹長 福本 千熊

第七聯合特別陸戰隊高砂義勇隊ニ要スル給與及其ノ

他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費臨時分仕出納官吏ヲ命ス(七五海軍省經理局長)

○ 雜 款

○事務所撤去

呂號第三十七潜水艦艇裝具事務所ハ六月三十日撤去セリ

0765

(別紙様式)

廳長檢印

國防獻金
恤兵金
學藝技術獎勵金

(昭和十八年七月二十八日海軍公報(部内限))
(昭和 年 月 日調製)

調製官 應名 恤兵金 分任出納官吏 官氏 名 圖
國防獻金
學藝技術獎勵金

0766

受領月日	寄附申出書 一頁番號	金額	希望使途	寄附者住所及氏名
合計				

(備考)

- 一 獻金ノ種別毎ニ各別紙ニ調製スルモノトス
- 二 希望使途ハ國防獻金ニ付テノ記載スルモノトシ希望ナキモノハ空欄トス
- 三 寄附者團體又ハ法人等ノ場合ハ其ノ名稱及代表者氏名ヲ併記スルモノトス

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第四千四百五十二號

昭和十八年七月二十九日(木)

海軍大臣官房

○通牒

官房備機密第一四五號ノ一〇

昭和十八年七月二十九日

海軍省 副官

各廳長 殿

郵便物ニ關スル件通牒

官房備機密第一四五號通牒首題ノ件別冊郵便物ニ關スル例規中左記ノ通改メラレ候

記

郵便物取扱ニ關スル例規中第一頁イ(軍事郵便物ノ名宛記載方ノ項)「舊英領ニューギニア方面」ヲ「ニューギニア方面」ニ改メ「舊英領ニューギニア」ヲ削ル
附録部隊區別符表(其ノ一)中ニ「第一輸送隊」ウ壹〇七「第五十二砲艇隊」ウ壹〇八「第五十一航空戰隊」ウ壹〇九「第十二聯合航空隊司令部」ウ壹壹〇」ヲ加

内令
要登載

別表海軍軍用郵便所及同派出所一覽表中第十一海軍軍用郵便所「第二派出所」ヲ「テニアン」第十三海軍軍用郵便所「第七派出所」ヲ「ブラウン」第八派出所「クサイ」第九派出所「タラワ」第十派出所「ナウル」第十一派出所「ラウシヤン」ヲ加へ第三十二海軍軍用郵便所「第三派出所」第五十一根據地隊」ヲ削ル

○辭令

八拾圓

瀬川 義夫

同

中川 五郎

(各通)

七拾圓

秩父 敬行

同

増山 榮壽

六拾圓

木下 竹夫

海軍省兵備局ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬月額(各頭書ノ通)ヲ給シ部内限判任官ヲ以テ待遇セラル

海軍公報(部内限) 第四千四百五十二號

昭和十八年七月二十九日

八〇三

0767

第三課附ヲ命ス(海軍省兵備局)

○雜款

○試驗問題發送

第一回普通科

經理術 衣糧術 特修兵銓衡試驗問題

右七月十五日左記ノ通發送濟 (試驗施行期日 八月十七日(火) 十八日(水))

記

- 一 聯合試驗參加不可能ト認メラルル所轄ヘハ直送
- 二 聯合試驗用ノモノハ各海軍人事部長及各警備府副官宛送付
- 三 行動變更其ノ他ノ都合ニヨリ臨時必要ノ分トシテ若干部數各海軍人事部長、各警備府副官及上海海軍特別陸戰隊副官宛送付シ置ケリ

未着若ハ臨時必要ヲ生ジタル向ハ最寄ノ右諸官ヨリ受領スルカ又ハ直接本校ニ請求相成度 (海軍經理學校)

普通科 機雷術 水測術 特技章附與第一回銓衡試驗問題

右七月二十二日左記ノ通發送濟、未着又ハ別ニ必要ノ向ハ海軍機雷學校ニ至急通知相成度

記

- 一 單獨試驗施行豫定ノ各部ニハ直送
- 二 聯合試驗用ノモノハ各海軍人事部及警備府宛送付
- 三 聯合試驗參加豫定ノ艦船ニシテ行動豫定變更ノ爲聯合試驗參加不能ノ向ニ對スル分トシテ單獨試驗用若干部數各海軍人事部宛送付シ置ケリ

(海軍機雷學校)

普通科砲術特技章附與第一回銓衡試驗問題掌砲兵 陸戰班 陸上對空班

(試驗期日 昭和十八年八月十六日(月))

右七月十九日左記ノ通發送濟、未着及別ニ必要ノ向ハ最寄海軍人事部、警備府又ハ館山海軍砲術學校ヘ至急通知相成度

記

- 一 聯合試驗用ノモノハ各海軍人事部各警備府宛送付
- 二 單獨試驗施行豫定ノ所轄ニハ直送
- 三 聯合試驗參加豫定ノ艦船ニシテ行動豫定變更ノ爲聯合試驗參加不能ノ向ニ對スル分トシテ前記宛單獨試驗問題若干送付濟

(館山海軍砲術學校)

0768

(限 内 部)

海軍公報(部内限)號外

○ 令 達

昭和十八年七月二十九日(木)

海軍大臣官房

官房軍第八四一號

昭和十七年度新造雜役船ノ公稱番號、船種、所屬等ヲ左ノ通定ム

昭和十八年七月二十八日

海 軍 大 臣

公稱番號	船 種	所 屬	定 數	別 補 充	製 造 訓 令 番 號		竣 工 豫 定 期 日	備 考
					製 造 所	契 約 納 入 場 所		
第六〇三號	内火傳馬船 (十二米)	洲ノ崎海軍航空隊	定	數	昭和十七年官房機密第一五 三九六號(吳)		昭和十八年 六月末日	
第六〇二號	同 (同)	麻里布海軍航空隊 (假稱)	同					
第六〇七號	同 (十米)	青島航空基地	同					
第六〇六號	同 (同)	上海航空基地	同					
第六〇五號	同 (同)	串本海軍航空隊	同					

海軍公報(部内限)號外

0769

第六九號	第六九號	自第六九號至第六九七號	自第六九號至第六九七號	第六八九號	第六八八號	第六八七號	第六八六號	第六八五號	第六八四號	第六八三號	第六八二號	第六八一號	自第六〇六號至第六〇九號
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	傳馬船 (十米)
(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)
舞鶴海軍港務部	舞鶴海軍港務部	第二十一海軍航空廠	第二十一海軍航空廠 鹿屋支廠	第二十一海軍航空廠 鹿屋支廠	德山海軍港務部	下關防備隊	下關防備隊	紀伊防備隊	紀伊防備隊	橫須賀防備隊	橫須賀防備隊	第二海軍航空廠	第二海軍航空廠
公稱第一四五二號代船(定數)	同	同	同	同	同	同	同	定數補充	定數補充	公稱第九一八號代船(定數)	公稱第九一八號代船(定數)	定數補充	定數補充
同 十七年官房機密第九七四九號ノ四(舞鶴)	同 十七年官房機密第九七四九號ノ四(舞鶴)	同 十七年官房機密第九七四九號ノ三(佐世保)	同 十七年官房機密第九七四九號ノ三(佐世保)	同 十七年官房機密第九七四九號ノ三(佐世保)	同 十七年官房機密第九七四九號ノ二(吳)	昭 和十七年官房機密第九七四九號ノ二(吳)	昭 和十七年官房機密第九七四九號ノ二(吳)	昭 和十七年官房機密第九七四九號ノ二(吳)	昭 和十七年官房機密第九七四九號ノ二(吳)	昭 和十七年官房機密第九七四九號ノ二(吳)	昭 和十七年官房機密第九七四九號ノ二(吳)	昭 和十七年官房機密第九七四九號ノ二(吳)	同 十七年官房機密第九七四九號ノ二(吳)
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	昭 和十八年 六月末日

0772

海軍公報 (部内限) 號外

第六〇〇號	同	(八米)	海軍經理學校	定數補充
第六〇一號	同	(同)	館山砲術學校	同
第六〇三號	同	(同)	橫須賀海軍通信學校	同
第六〇四號	同	(同)	海軍航海學校	同
第六〇八號	同	(同)	海軍機雷學校	同
第六一二號	同	(同)	海軍工作學校	同
第六二二號	同	(同)	海軍機雷學校	同
第六二五號	同	(同)	海軍工作學校	同
第六二四號	同	(同)	海軍工作學校	同
第六二六號	同	(同)	橫須賀海軍砲術學校	同
第六二七號	同	(同)	橫須賀第二海兵團	同
第六二八號	同	(同)	橫須賀第二海兵團	同
第六三九號	同	(同)	洲ノ崎海軍航空隊	同

同 十七年官房機密第九七四九號 (橫須賀)

同	同	同	同	同	同	同	同	同
四	二	同	同	四	五	同	同	同
月	月			月	月			
末	末			末	末			
日	日			日	日			

五

0773

第六三〇號	傳馬 <small>(八米船)</small>	洲ノ崎海軍航空隊	定數補充	昭和十七年官房機密第九七 四九號ノ二(吳)	昭															
第六三三號	同	青島航空基地	同		昭	和	十	八	年											
第六三三號	同	上海航空基地	定數補充		同															
第六三三號	同	愛媛海軍航空隊 <small>(假稱)</small>	同		同															
第六三四號	同	追濱海軍航空隊	同		同															
第六三五號	同	知多海軍航空隊	同		三	同	月	末	日											
第六三六號	同				二	同	月	末	日											
第六三七號	同	海軍兵學校	同		三	同	月	末	日											
第六三三號	同	海軍潜水學校	同		完															
第六三四號	同	大竹海兵團	同		完															
第六三五號	同	紀伊防備隊	同		三	同	月	末	日											
第六三五號	同	下關防備隊	同		同															
第六三五號	同	愛媛海軍航空隊 <small>(假稱)</small>	同		完															

0774

海軍公報(部内限) 號外

第六三五號	同	(同)				同
第六三二號	同	(同)	吳海軍建築部	臨時附屬		同 三 月 末 日
第六三〇號	同	(同)	佐世保第二海兵團	定數補充		同
第六二八號	同	(同)	富高航空基地 (假稱)	同		同
第六二六號	同	(同)	櫻島航空基地 (假稱)	同		完 成
第六二四號	同	(同)	佐世保海軍建築部	臨時附屬		同
第六二二號	同	(同)	海軍工機學校分校	定數補充		同 三 月 末 日
第六二〇號	同	(同)	舞鶴海兵團	同		同
第六一八號	同	(同)				同 同 十七年官房機密第九七 四九號ノ四(舞鶴)
第六一六號	同	(同)				同 同 十七年官房機密第九七 四九號ノ三(佐世保)

0775

第六〇七號 自	第六〇七號 至	第六〇三號 自	第六〇三號 至	第六〇〇號 自	第六〇〇號 至	第六三三號 自	第六三三號 至	第六三〇號 自	第六三〇號 至	第六二七號 自	第六二七號 至
傳馬船 (八米)	同	運貨船 (シヤラン型) (二百噸積)	同	同	同	第一海軍航空廠 (官廳積)	同	同	同	同	同
舞鶴海軍建築部	高雄海軍建築部 (海南建築部併用)	佐世保海軍工廠	第一海軍航空廠	第十一海軍航空廠	第二十一海軍航空廠	高雄海軍軍需部	馬公海軍建築部	橫須賀海軍建築部 (第四建築部併用)	同	同	同
臨時附屬	同	定數補充	同	同	同	同	臨時附屬	同	同	同	同
		昭和十七年官房機密第一五 五〇九號(佐世保)	同	同	同	同	同	同	同	同	同
昭和十八年 三月末日	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

0776

自 第六二一號	運貨船 (團平型)(浮船積)	橫須賀海軍建築部	臨時附屬	同 十七年官房機密第一五 五〇七號(橫須賀)	昭和十八年 五月末日
自 第六二二號	同	吳海軍建築部	同	同 十七年官房機密第一五 五〇八號(吳)	同
自 第六二六號	運貨船 (同)	高雄海軍建築部	臨時附屬	昭 和十七年官房機密第一五 五一三號(高雄)	昭 和十八年 八月末日
自 第六二七號	同	同	同	同 十七年官房機密第一五 五〇七號(橫須賀)	三 月末日
自 第六三〇號	同	高雄海軍軍需部	同	同 十七年官房機密第一五 五一三號(高雄)	同
自 第六三七號	同	吳海軍軍需部	臨時附屬	同 十七年官房機密第一一 五六七號(吳)	完 成
自 第六三九號	起重機臺船 (十艘)	橫須賀海軍建築部 (第四建築部供用)	同	同 十七年官房機密第一五 五一四號(第四工作部製造)	昭 和十八年 十二月末日
自 第六四〇號	橋船 (長三米、幅六米)	三重海軍航空隊	定數補充	同 十七年官房機密第一五 五〇八號(吳)	三 月末日
自 第六六一號	同	海軍兵學校	同	同	同

0778

第自 一六〇七號	第自 一六〇六號	第自 一六〇五號	第至 一六〇四號	第自 一六〇三號	第自 一六〇二號	第自 一六〇〇號	第自 一五九九號	第自 一五九八號	第至 一五九七號	第自 一五九五號	第至 一五九四號	第自 一五九三號	第至 一五九二號	第自 一五九一號	第自 一五九〇號
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)
鹿兒島海軍航空隊			海軍工作學校			海軍工機學校			海軍機雷學校						
同			同			同			同						
昭和十七年官房機密第九七 四九號(横須賀)															
同	四同 月 末 日	七昭 和 十 八 年 末 日	完 成	四同 月 末 日	七昭 和 十 八 年 末 日	完 成	七昭 和 十 八 年 末 日	完 成	七昭 和 十 八 年 末 日	完 成	七昭 和 十 八 年 末 日	完 成	七昭 和 十 八 年 末 日	完 成	七昭 和 十 八 年 末 日

海軍公報(部内限) 號外

一三

0781

第 一 六 五 號	第 一 六 四 號	第 一 六 三 號	第 一 六 二 號	第 一 六 一 號	第 一 六 〇 號	第 一 六 五 號	第 一 六 四 號	第 一 六 三 號	第 一 六 二 號	第 一 六 一 號	第 一 六 〇 號
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	カ ツ タ 一 (九米)
大竹海兵團		海軍潜水學校			海軍兵學校		鹿兒島海軍航空隊			大津海軍航空隊	
同		同			同		同			定數補充	
昭和十七年官房機密第九七四九號ノ二(吳)											
九 月 末 日 年	完 成	五 月 末 日 年	完 成	五 月 末 日	五 月 末 日	四 月 末 日 年					

0782

第自 第七七號	同	(同)	舞鶴海兵團	同	昭和十七年官房機密第九七 四九號ノ四(舞鶴)	完 成
第至 第七六號	同	(同)	海軍工機學校分校	同		三同 月 末 日
第自 第七〇四號	同	(同)			佐世保第二海兵團	同
第自 第七〇三號	同	(同)	鹿兒島海軍航空隊	同		
第至 第七〇二號	同	(同)			下關防備隊	同
第自 第六九號	同	(同)	紀伊防備隊	同		
第至 第六七號	同	(同)			同	同
第自 第六六號	同	(同)	同	同		
第至 第六五號	同	(同)			同	同
第自 第六四號	同	(同)	同	同		
第至 第六三號	同	(同)			同	同
第自 第六二號	同	(同)	同	同		
第至 第六一號	同	(同)			同	同
第自 第六〇號	同	(同)	同	同		
第至 第五九號	同	(同)			同	同
第自 第五八號	同	(同)	同	同		
第至 第五七號	同	(同)			同	同
第自 第五六號	同	(同)	同	同		
第至 第五五號	同	(同)			同	同
第自 第五四號	同	(同)	同	同		
第至 第五三號	同	(同)			同	同
第自 第五二號	同	(同)	同	同		
第至 第五一號	同	(同)			同	同
第自 第五〇號	同	(同)	同	同		
第至 第四九號	同	(同)			同	同
第自 第四八號	同	(同)	同	同		
第至 第四七號	同	(同)			同	同
第自 第四六號	同	(同)	同	同		
第至 第四五號	同	(同)			同	同
第自 第四四號	同	(同)	同	同		
第至 第四三號	同	(同)			同	同
第自 第四二號	同	(同)	同	同		
第至 第四一號	同	(同)			同	同
第自 第四〇號	同	(同)	同	同		
第至 第三九號	同	(同)			同	同
第自 第三八號	同	(同)	同	同		
第至 第三七號	同	(同)			同	同
第自 第三六號	同	(同)	同	同		
第至 第三五號	同	(同)			同	同
第自 第三四號	同	(同)	同	同		
第至 第三三號	同	(同)			同	同
第自 第三二號	同	(同)	同	同		
第至 第三一號	同	(同)			同	同
第自 第三〇號	同	(同)	同	同		
第至 第二九號	同	(同)			同	同
第自 第二八號	同	(同)	同	同		
第至 第二七號	同	(同)			同	同
第自 第二六號	同	(同)	同	同		
第至 第二五號	同	(同)			同	同
第自 第二四號	同	(同)	同	同		
第至 第二三號	同	(同)			同	同
第自 第二二號	同	(同)	同	同		
第至 第二一號	同	(同)			同	同
第自 第二〇號	同	(同)	同	同		
第至 第一九號	同	(同)			同	同
第自 第一八號	同	(同)	同	同		
第至 第一七號	同	(同)			同	同
第自 第一六號	同	(同)	同	同		
第至 第一五號	同	(同)			同	同
第自 第一四號	同	(同)	同	同		
第至 第一三號	同	(同)			同	同
第自 第一二號	同	(同)	同	同		
第至 第一一號	同	(同)			同	同
第自 第一〇號	同	(同)	同	同		
第至 第九號	同	(同)			同	同
第自 第八號	同	(同)	同	同		
第至 第七號	同	(同)			同	同
第自 第六號	同	(同)	同	同		
第至 第五號	同	(同)			同	同
第自 第四號	同	(同)	同	同		
第至 第三號	同	(同)			同	同
第自 第二號	同	(同)	同	同		
第至 第一號	同	(同)			同	同
第自 第一號	同	(同)	同	同		

第 七 三 號	第 七 四 號	第 七 五 號	第 七 六 號
カ ツ タ 一 (九 米)	同 (同)	内 火 ラ ン チ (十 二 米)	
舞 鶴 防 備 隊	出 水 海 軍 航 空 隊	同	
定 數 補 充	同		
所 三 菱 長 崎 造 船		同	
佐 世 保 工 廠		同	
完	同		
成			

0784

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第四千四百五十三號

昭和十八年七月三十日(金)

海軍大臣官房

○通牒

艦本機密第一號ノ一〇一三六

昭和十八年七月二十八日

海軍艦政本部總務部長

關係各廳長殿

九六式二十五耗機銃腰掛帶撤去ノ件照會

首題部品ハ從來ノ實績ニ鑑ミ不用ト認メラレ本年五月以降製造ノモノニ對シテハ之ヲ廢止セラレ候處供用中又ハ在庫ノモノニシテ現ニ之ヲ装着セルモノハ時機ヲ得次第撤去ノ上還納シ造兵材料トシテ適宜利用ノコトニ取計相成度

○辭令

機械工員 福田 利文

佐世保鎮守府附ヲ免ス(依海軍省)

海軍主計大佐 井川 一雄

海軍服制研究調査會委員ヲ命ス
兵食研究調査會委員
造船委員會第一委員會委員
海軍規格審議會議員ヲ命ス(依同)

海軍主計少佐 村岡 遠志

海軍生徒採用試驗常置委員ヲ命ス
事務員 小堺 吉章
同 橋本 一郎
同 上野 忠義
同 山根 茂之
同 松本 薰

第八海軍軍用郵便所員ヲ命ス
但シ身分ノ取扱ハ雇員トス(以上依同)

第三十二特別根據
地隊附海軍中尉 上杉 敬明
海軍軍法會議法第七十三條ノ二ニ依リ海軍司法警察
官トシテ勤務スル者ニ指定ス

海軍公報(部内限) 第四千四百五十三號

昭和十八年七月三十日

八〇五

0785

第二十三特別根據
地隊附海軍大尉 川嶋 辰雄

海軍軍法會議法第七十三條ノ二ニ依リ海軍司法警察
官トシテ勤務スル者ニ指定中ノ處指定ヲ解ク(以上
海軍大臣)

第二課勤務ヲ命ス

海軍中佐 木内 三郎

第三課勤務ヲ命ス(以上海軍省軍需局)

海軍主計少佐 子安 榮春

○ 雜 款

○兵進級候補名簿ニ關スル件通知
左記卒業練習生ニシテ本年後期(八月一日)進級有資
格者ニ對スル候補名簿ハ全部本校ニ於テ登載済ニ付了
相知成度

一 第十二、第十三期普通科工作術練習生

○試驗問題發送

第一回普通科特技章(掌 整備) 付與銓衡試驗問
題(掌 航空兵器)

右七月二十四日左ノ通發送済
一 單獨試驗施行ノ分 直接各部宛

一 聯合試驗用 各人事部、整備府宛
一 應急出動艦船用 (第十八聯合航空隊司令部)

○家族移轉料支給上ノ勤務地指定ノ件通知
昭和十六年官房第七二一號ニ依ル首題ノ件左記ノ通

第五十二航空戰隊司令部 横濱

○司令驅逐艦變更

第二十四驅逐隊司令ハ六月二十七日司令驅逐艦ヲ涼風
ニ變更セリ

○事務開始

三池在勤海軍武官府博多出張所ハ七月十五日福岡市千
歲町博多稅關支署内ニ於テ事務ヲ開始セリ

○事務所撤去

呂號第三十八潜水艦裝具事務所ハ七月二十四日撤去
セリ

○正誤

七月二十三日附公報(部内限)辭令欄中「海軍主計大
尉石井次男」トアルハ「海軍主計少佐石井次男」ノ誤

○本日普通公報發行セズ

0786

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 號外

○ 徽 爵

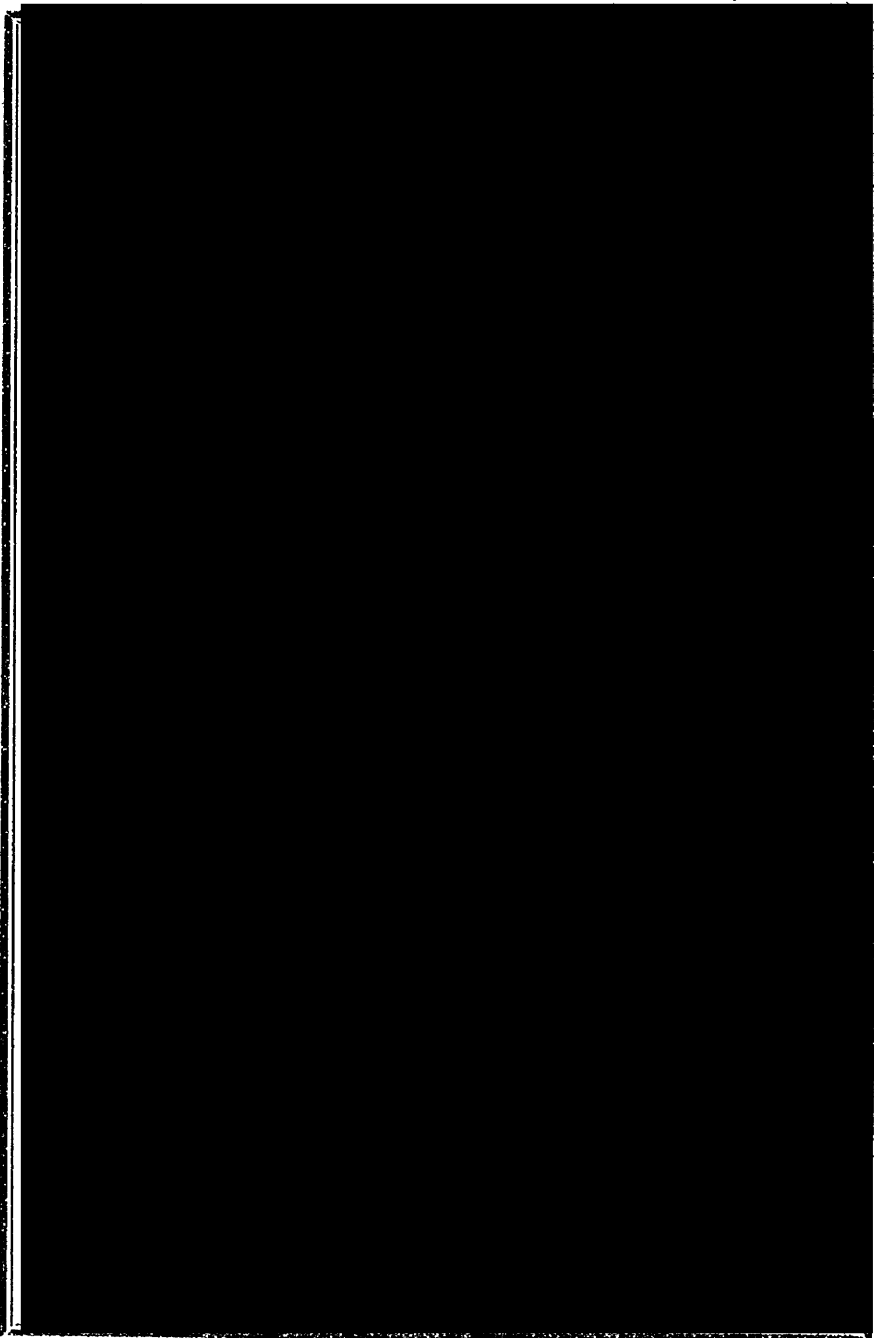
昭和十八年七月三十日(金)
海軍大臣官房

海軍公報 (部内限) 號外

0787

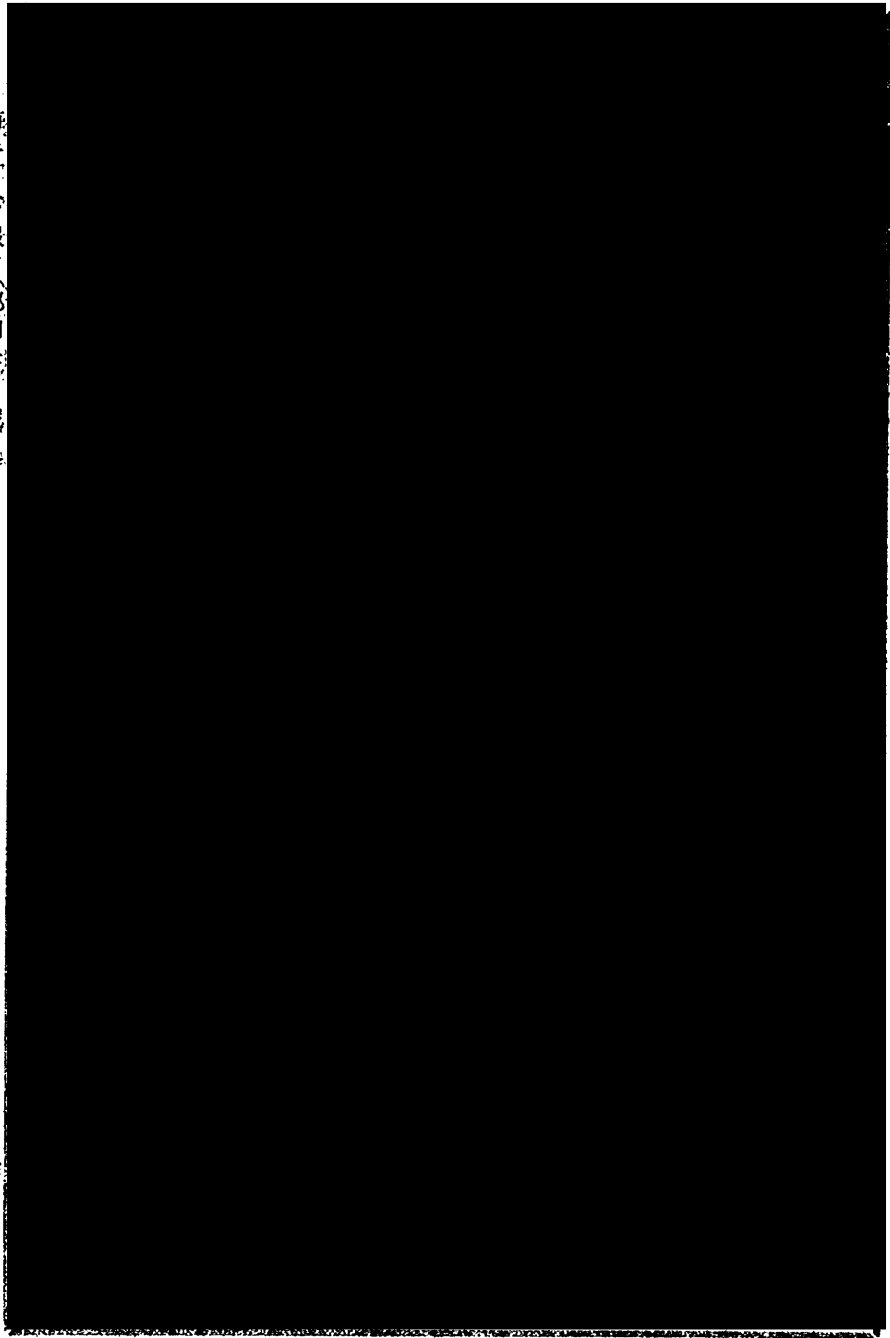
(第 四 期)

海軍公報 (部内限) 號外



0788

海軍公報 (部内限) 號外



五

0789

海軍公報
(部内限)
號外

四

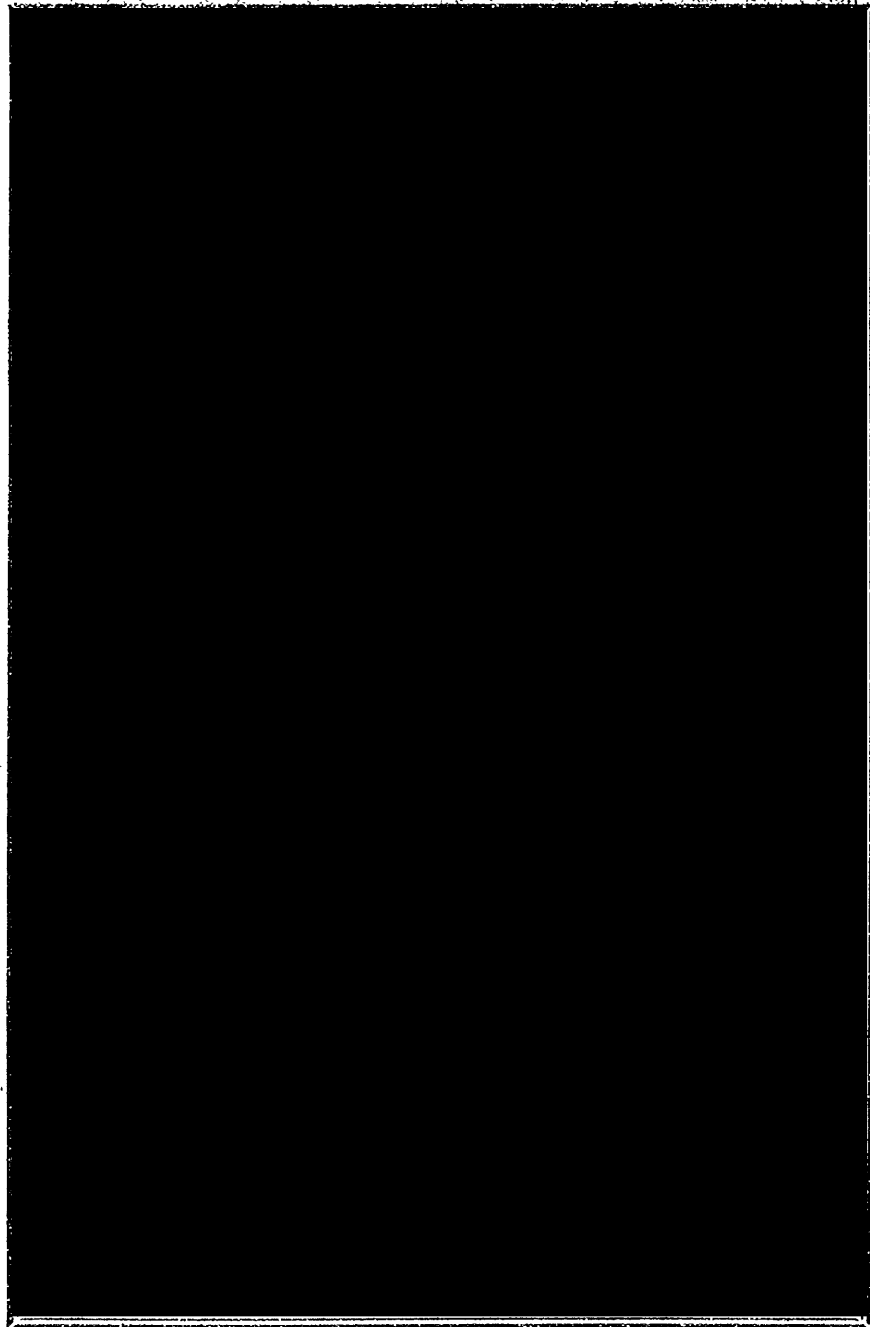
0790

海軍公報
(部内限)
號外

五

0791

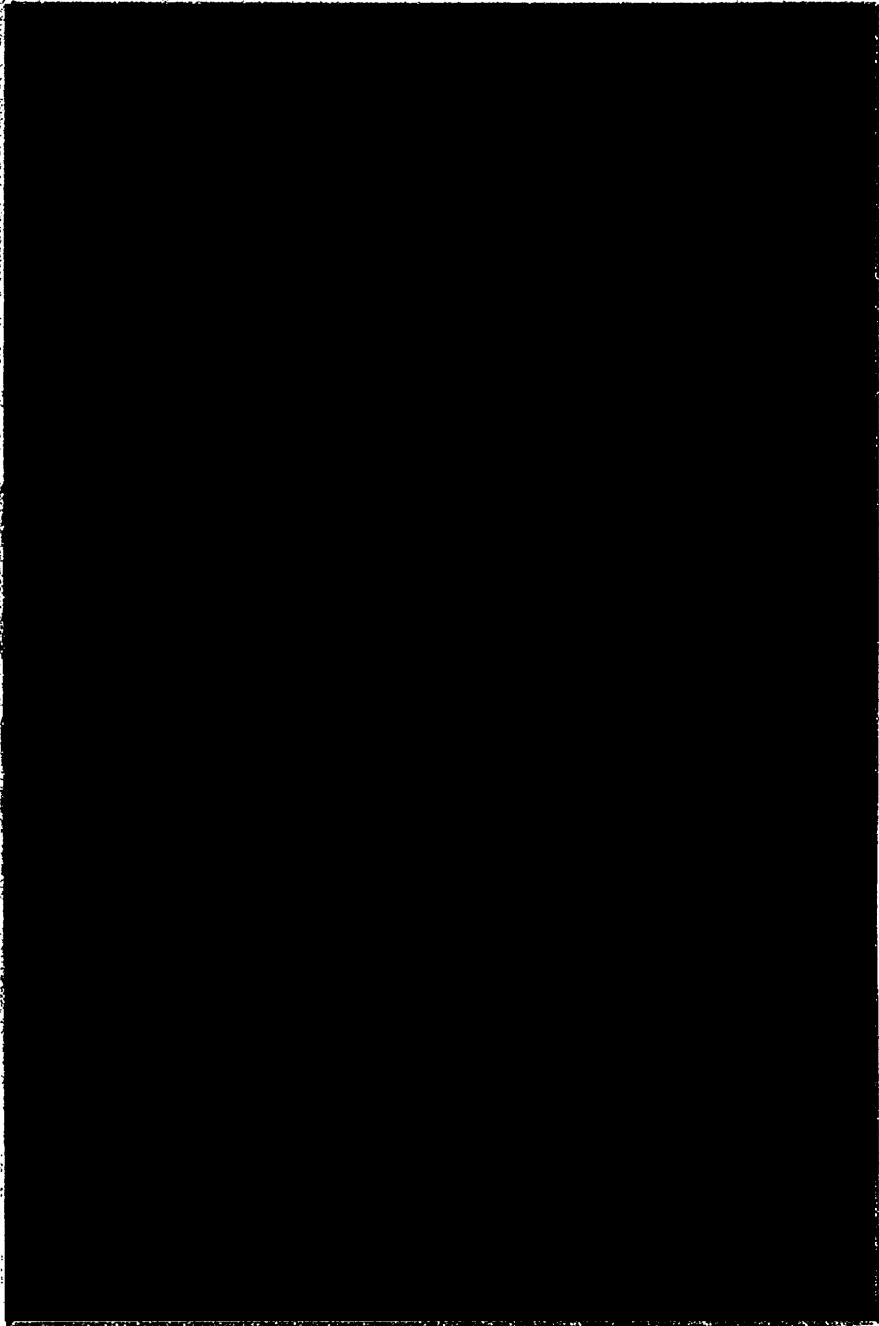
海軍公報 (部内限) 號外



六

0792

海軍公報
(部内限)
號外



七

0793

海軍公報
(部内限)
號外

八

0794

海軍公報 (部内限) 號外

九

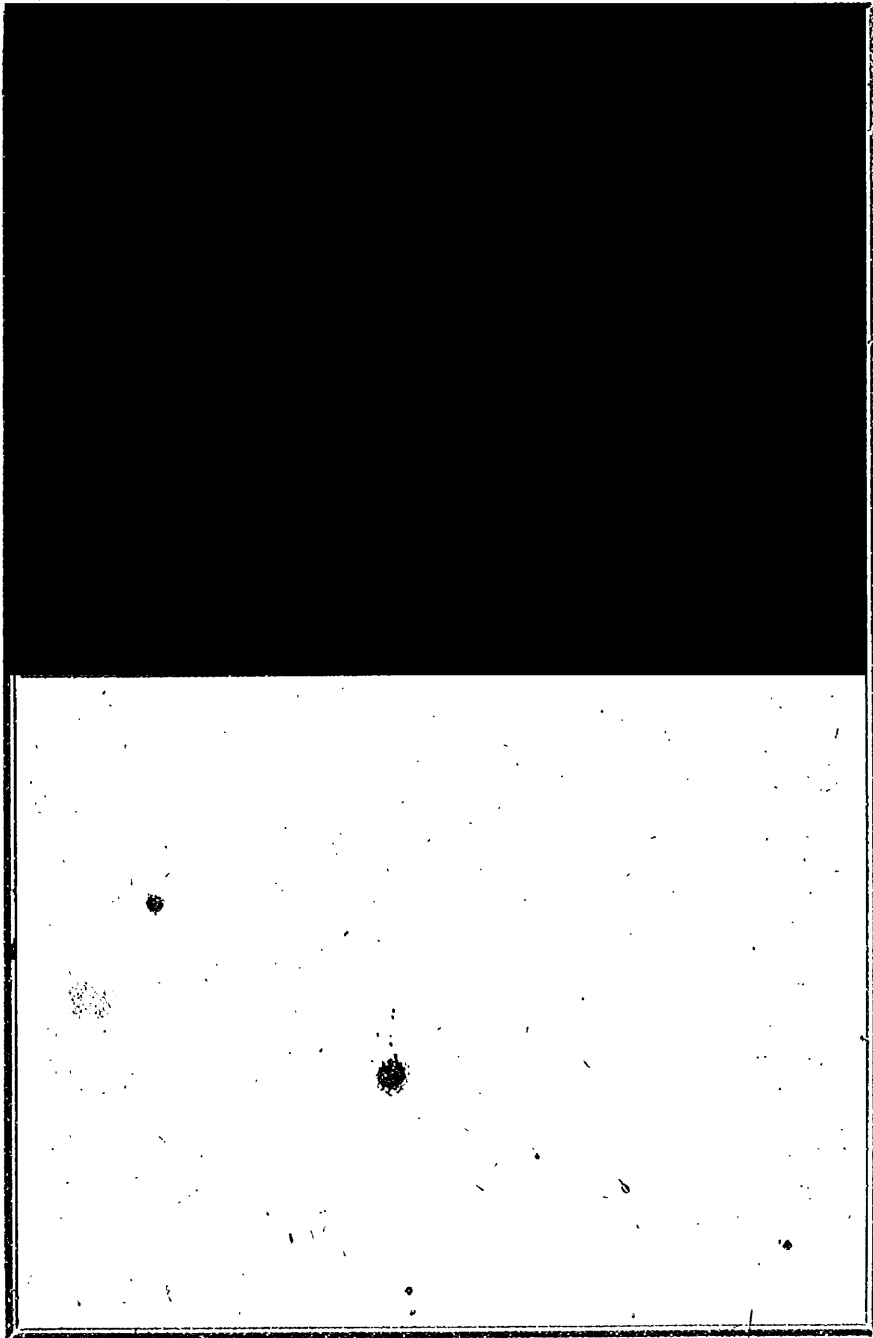
0795

海軍公報 (部内限) 號外

一〇

0796

海軍公報 (部内限) 號外



0797

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第四千四百五十四號

昭和十八年七月三十一日(土)

海軍大臣官房

○令 達

官房機密第四五九號
 當分ノ間特ニ事情止ムヲ得ザル場合ニ限リ海軍經理部長及特設海軍經理部長間ニ於テハ協議ノ上其ノ會計監督事務ノ一部ヲ相互ニ委任スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ委任事項ヲ海軍大臣ニ報告スベシ
 本令ハ昭和十八年六月一日ヨリ之ヲ適用ス
 昭和十五年官房機密第八〇〇〇號ハ之ヲ廢止ス(廢)

海軍大臣

○辭 令

十二設營隊徵用員 織岡 一夫
 吳海軍建築部ニ配屬ス
 氣象技手 具志堅 典富
 第二氣象隊附ヲ免シ水路部附兼海軍氣象部附ヲ命ス

(以上 七 日 海軍省)

第四海軍建築部徵用員 辻 宇三郎
 海軍施設本部補給部ニ配屬ス(註同)
 第二課勤務ヲ命ス 海軍主計中佐 栗 武彦
 第二課勤務ヲ命ス(註同) 海軍主計少佐 村岡 達志
 第四課勤務ヲ命ス(註同) 海軍主計中佐 栗 武彦
 第四課勤務ヲ命ス(註同) 海軍省(經理局)

○雜 款

○事務所撤去
 驅逐艦涼波艦裝具事務所ハ七月二十七日撤去セリ
 ○失官

海軍公報(部内限) 第四千四百五十四號 昭和十八年七月三十一日

八〇七

0798